

[成果情報名]ビワ「なつたより」のカラーチャートによる収穫適期予測法

[要約]ビワ「なつたより」は、収穫適期を表すカラーチャート値7～8で緑斑症はほぼ消滅し、落果も少ない。収穫適期はカラーチャート値1から約10日後と予測でき、1果実の収穫適期期間は、約4日間である。

[キーワード]ビワ、「なつたより」、カラーチャート、収穫適期、予測

[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ・落葉果樹研究室

[連絡先](代表)0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]普及

[作成年度]2014年度

[背景・ねらい]

ビワ「なつたより」は、成熟時の着色が他品種と比べて薄いため収穫適期の判断が難しく、取り遅れにより青果率が低下している。果樹研究部門では食味を重視したカラーチャート値による収穫適期判断基準を作成したが、緑斑症、落果等果皮障害の発生状況は未確認であった。

そこで、青果率向上のための収穫適期を明らかにするとともに、未熟な段階において、果皮色の変化から成熟時期を予測する目安を作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 緑斑症は年度により発生の程度が異なるが、着色が進むほど症状が軽くなり、カラーチャート値7～8ではほぼ消滅する(図1)。
2. 落果は、果実の形質(小果梗、果実重)にかかわらず、カラーチャート値9以上で出現する(表1)。
3. 収穫適期までの期間は、果皮色がカラーチャート値1の時は約10日、2の時は約7日、5の時は約4日と予測できる(図2)。
4. 1果実の収穫適期期間は、カラーチャート値7～8までの期間の約4日間である(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 着色進度は、2012年度に果樹研究部門で開発したカラーチャート(対応マンセル値(H)は1=2.4GY、2=4.6Y、3=3.6Y、4=2.9Y、5=2.1Y、6=9.9YR、7=9.5YR、8=8.7YR、9=7.9YR、10=6.7YR)を使用し、果実の赤道部を測定した。
2. このデータは、2ヵ年間果樹研究部門露地栽培の同一圃場で、9年生(2014年当時)樹に、もぎ二重T36(江見製袋(株))を袋かけした調査結果である。
3. 品種により成熟時の着色が異なるため、この成果は「なつたより」のみに活用できる。
4. 収穫直前の1果房内3果の果皮色差は、カラーチャート値で約1.2(データ略)であるため、房収穫する場合は最も着色の進む果実のカラーチャート値が8をこえない時点で収穫することが必要である。

[具体的データ]

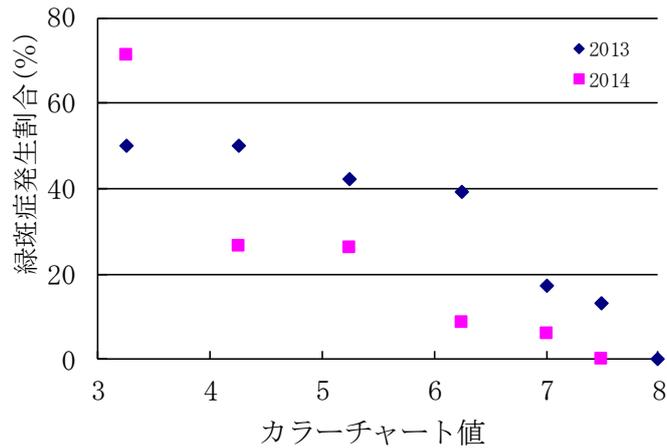
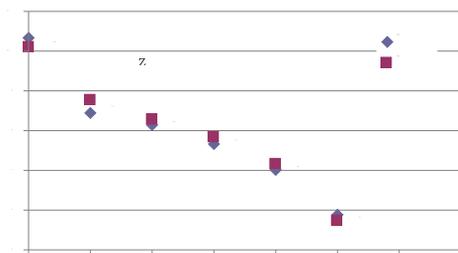


図1 カラーチャート値と緑斑症発生割合

表1 落果果房の形質 (2013、2014)

区分	果皮色	小果梗径 (mm)	小果梗長 (mm)	果実重 (g)
	カラー チャート値			
落果果実	9.2	7.2	23.0	59.0
着果果実	8.7	6.7	22.5	57.3
有意差 ^z	**	NS	NS	NS

^z t検定により **1%水準で有意差あり



^z 2ヵ年平均値



図2 カラーチャート値と収穫適期までの期間

[その他]

研究課題名：ビワ新品種‘なつたより’若齢樹の安定生産技術の確立

ビワ「なつたより」の高品質果実安定生産技術と成熟予測システムの開発

予算区分：県単

研究期間：2011～2013年度、2014～2015年度

研究担当者：山下次郎、谷本恵美子